



# 学びの庭

甲府市立甲運小学校  
学校だより第7号  
平成28年10月27日  
(文責：勝村 正樹)



## 平成28年度全国学力・学習状況調査と 質問紙調査の結果についてお知らせします

平成28年度の全国学力・学習状況調査を4月19日、6年生を対象に国語・算数の学力・学習状況調査と児童質問紙調査とに分けて行いました。

全国学力・学習状況調査結果の山梨県の平均と全国の平均は次のとおりです。

	国語A正答率	国語B正答率	算数A正答率	算数B正答率
全国平均	72.9	57.8	77.6	47.2
県平均	71.3	58.2	77.2	46.6

\*表内の数字は%

全国学力・学習状況調査の結果につきましては、山梨県教育委員会の分析にもあるように、正答率の±5%の範囲にある場合は、山梨県平均および全国平均とほぼ同等と考えています。

### 平成28年度全国学力・学習状況調査結果の分析(国語)

#### ○全体の傾向

##### 「A区分問題」

・国語Aでは、山梨県平均、全国平均とほぼ同等ですが、やや上回っています。

##### 「B区分問題」

・国語Bでは、山梨県平均とほぼ同等ですが、全国平均を上回っています。

##### [詳細について]

国語A(基礎的な知識)では「漢字の読み書き」は良好な成績でしたが、「むだを省く」の漢字の読みや「先生にそうだんする」の漢字の書きには課題がありました。また、ローマ字を読むことは、全国平均より正答率が高く、よくできていましたが、ローマ字で「あさって」と書く問題では、全国平均より高い正答率であるものの、課題が残りました。「目的や意図に応じて、収集した情報に関係づけながら話し合うことができるかどうかをみる」問題では、高い正答率でした。「目的や意図に応じて、収集した情報に関係づけながら話し合うことができるかどうかをみる」問題では、高い正答率でした。また、「目的に応じて、図と表とを関係つけて読むことができるかどうかをみる」も概ねできていました。しかし、「登場人物の人物像について複数の叙述を基にしてとらえることができるかどうかをみる」では、課題がありました。

国語B(活用力)では、「目的や意図に応じて、グラフを基に、自分の考えを書くことができるかどうかをみる」、「目的に応じて、文章の内容を的確に押さえ、自分の考えを明確にしながらかつ読むことができるかどうかをみる」での正答率が全国平均より低く、課題が残りました。「目的に応じて、複数の本や文章などを選んで読むことができるかどうかをみる」は、全国平均より高く、よくできていました。



## 平成28年度全国学力・学習状況調査結果の分析(算数)

### ○全体の傾向

#### 「A区分問題」

- ・算数Aでは、全国平均とほぼ同等ですが、全国平均をやや下回っています。

#### 「B区分問題」

- ・算数Bでは、全国平均とほぼ同等ですが、県平均をやや上回っています。

#### [詳細について]

算数A(主として知識)では、基本的な計算や式については良好な結果でした。しかし、「除数と被除数に同じ数をかけて(小数)÷(小数)を(整数)÷(整数)に置き換えても、商は変わらないことを理解しているかどうかをみる」問題では、課題がありました。また、「三角形の底辺と高さの関係について理解しているかどうかをみる」にも課題あります。

算数B(主として活用)では、「示された事柄について、二つの表を基に読み取ることができる事柄とできない事柄を特定することができるかどうかをみる」問題は概ねできています。しかし、「示された除法の式を並べてできた形と関連付け、角の大きさを基に、式の意味の説明を記述することができるかどうかをみる」では、正答率がやや低く、課題があります。

これらの結果を受け、今後学校では、

- ・週2回行っている朝学習をより充実させていきます。
- ・各学年ごとに授業の改善を目指して研究を進めていきます。さらに各自が取り組む研究教科以外にも、情報交換を行う中で指導力の向上を図ります。
- ・「児童同士の学びあい」の成立を意図した授業内での意見交流場面を積極的に設定していきます。
- ・全国学力学習状況調査の結果についての学習会を校内研究の時間を利用して行い、いかにして授業に反映させていくかを全職員で検討し、実践していきます。

6年では、具体的な取り組みとして

- ・学力・学習状況調査の結果から児童がやや苦手としていると思われる問題について改善を図るため、定期的に過去に学習した内容の復習を行うなどの手立てを考えていきます。
- ・ノートの取り方については、より効果的な手法を共有できるようにする機会を設けていきます。

## 平成28年度全国学力・学習状況調査結果の分析(質問紙)

児童質問紙調査では、子どもたちの生活習慣やものの考え方についての質問がありました。「自分には、よいところがあると思いますか」は非常に高い結果でした。自己肯定感をもつ児童の割合が高いといえます。また、「あなたの学級では、学級会などの時間に友達同士で話し合って学級の決まりなどを決めていると思いますか」についても「そう思う」の回答が多くありました。

学校ではこれらの結果を踏まえ、子どもたちがいろいろな場面で成功体験を積み重ねていけるような授業や行事を工夫し、自分に自信の持てる子どもたちを育てていきたいと考えています。生活習慣や学習習慣は、ご家庭の協力がなければ確立できません。今後とも家庭と学校が協力して子どもたちの成長を支えていきたいと思っております。よろしくお願いいたします。



詳しいことについては、本校のホームページに掲載されていますので、ご覧ください。